

2024 年度 FD・SD 活動報告書

全学の取り組み

全学 FD 研修

	開催日	テーマ（講師）	参加人数
第 1 回	5 月 18 日（土）～ 5 月 19 日（日）	「授業づくりワークショップ」 大阪大学 佐藤 浩章 教授	3 名 （教員 3 名）
第 2 回	5 月 28 日（火）、 6 月 25 日（火）、 7 月 16 日（火）、 7 月 23 日（火）	「英語による授業実践・スキルアップ研修（春学期・太 秦キャンパス）」 総合研究所・学長室 スミス マイケル先生	12 名 （教員 12 名）
第 3 回	6 月 3 日（月）～ 6 月 28 日（金）	「春学期 授業公開・見学」	210 名 （教員 157 名、 職員 53 名）
第 4 回	7 月 25 日（木）	「『2023 年度授業評価賞』表彰式および今後の授業改善 に向けた取り組み	11 名 （教員 11 名、 職員 0 名）
第 5 回	7 月 29 日（月）	「ICT を活用したブレンデッド授業の実施」 大阪大学 浦田 悠 准教授	183 名 （教員 183 名、 職員 0 名）
第 6 回	8 月 27 日（火）	「プレ FD」 バイオ環境学部 食農学科 藤田 裕之 教授	1 名 （教員 0 名、 院生 1 名）
第 7 回	9 月 19 日（木）	「プレ FD」 総合研究所・学長室 スミス マイケル先生	10 名 （教員 0 名、 院生 10 名）
第 8 回	10 月 16 日（水）、 11 月 20 日（水）、 12 月 18 日（水） 1 月 22 日（水）、 2 月 19 日（水）、 3 月 19 日（水）	「英語による授業実践・スキルアップ研修（秋学期・亀 岡キャンパス）」 総合研究所・学長室 スミス マイケル先生	18 名 （教員 18 名）
第 9 回	10 月 17 日（木）、 11 月 21 日（木）、 12 月 19 日（木） 1 月 23 日（木）、 2 月 25 日（木）、 3 月 18 日（火）	「英語による授業実践・スキルアップ研修（秋学期・太 秦キャンパス）」 総合研究所・学長室 スミス マイケル先生	6 名 （教員 6 名）
第 10 回	10 月 30 日（水）	「第 1 回 カリキュラム・アセスメント」 東京大学 佐藤 浩章 教授	30 名 （教員 15 名、 職員 15 名）

第 11 回	11 月 1 日 (金) ～ 11 月 29 日 (金)	「秋学期 授業公開・見学」	232 名 (教員 169 名、 職員 63 名)
第 12 回	3 月 12 日 (水)	「第 2 回 カリキュラム・アセスメント」 東京大学 佐藤 浩章 教授	19 名 (教員 19 名)

全学 SD 研修

	開催日	テーマ (講師)	参加人数
第 1 回	6 月 5 日 (水)	「健康に過ごすための自分に合った運動法」 宰務 せい子 氏	207 名 (教員 151 名、 職員 56 名)
第 2 回	6 月 12 日 (水) ～ 7 月 14 日 (日)	「研究に関わるコンプライアンス研修」 研究連携センター センター長 小関 敏彦 副学長 研究連携センター 副センター長 高瀬 尚文 教授 研究連携センター 部長 久島 真理 氏	258 名 (教員 242 名、 職員 16 名)
第 3 回	6 月 13 日 (木)、 7 月 11 日 (木)、 8 月 8 日 (木)	「春学期 英語によるコミュニケーション・スキルア ップ研修 (初級)」 教務センター 柴田 Sophie 氏 国際センター Graham Boden 氏	20 名 (教員 0 名、 職員 20 名)
第 4 回	6 月 20 日 (木) 7 月 18 日 (木)、 8 月 22 日 (木)	「春学期 英語によるコミュニケーション・スキルア ップ研修 (中・上級)」 教務センター 柴田 Sophie 氏 国際センター Graham Boden 氏	11 名 (教員 0 名、 職員 11 名)
第 5 回	7 月 3 日 (水)	「第 2 回 大学で出来る自殺予防」 名古屋大学 心の発達支援研究実践センター こころの支援実践分野 杉岡 正典 准教授	239 名 (教員 171 名、 職員 68 名)
第 6 回	7 月 24 日 (水) ～ 9 月 30 日 (月)	「教職員のためのメンタルヘルスケア～ストレスチェ ックの見方と活用方法～」 京都産業保健総合支援センター 社会保険労務士、産業カウンセラー、 キャリアコンサルタント 金丸 京子 様	265 名 (教員 182 名、 職員 83 名)
第 7 回	9 月 3 日 (火)	「第 1 回 本学の経営をとりまく課題・方向性につい て」 濱田 忠章 副理事長	272 名 (教員 149 名、 職員 123 名)
第 8 回	9 月 11 日 (水) ～ 10 月 13 日 (日)	「本学の障がい学生支援について」 キャンパスライフ健康支援・相談課 学生支援室 コーディネーター 高野 元貴 氏	220 名 (教員 154 名、 職員 66 名)
第 9 回	9 月 12 日 (木)	「内部質保証の意義と教学改善に向けた課題」 (株) リアセック 酒井 陽年 氏	207 名 (教員 152 名、 職員 55 名)
第 10 回	9 月 27 日 (金) ～ 10 月 31 日 (木)	「2024 年度『卒業生調査』報告」 (株) リアセック 荒井 啓輔 氏	230 名 (教員 155 名、

			職員 75 名)
第 11 回	10 月 17 日 (木)、 11 月 14 日 (木)、 12 月 12 日 (木)	「秋学期 英語によるコミュニケーション・スキルアップ研修 (初級)」 教務センター 柴田 Sophie 氏 国際センター Graham Boden 氏	10 名 (教員 0 名、 職員 10 名)
第 12 回	10 月 24 日 (木)、 11 月 28 日 (木)、 12 月 19 日 (木)	「秋学期 英語によるコミュニケーション・スキルアップ研修 (中・上級)」 教務センター 柴田 Sophie 氏 国際センター Graham Boden 氏	10 名 (教員 0 名、 職員 10 名)
第 13 回	12 月 4 日 (水)	「2025 年度から始動する教育改革の概要についてー重要事項を中心にー」 副学長・教育改革支援センター長 西片 聡哉 教授	320 名 (教員 204 名、 職員 116 名)
第 14 回	12 月 20 日 (金)	「PROG 関係部署説明会」 副学長・教育改革支援センター長 西片 聡哉 教授 (株) リアセック 酒井 陽年 氏	22 名 (教員 3 名、 職員 19 名)
第 15 回	12 月 24 日 (火)	「第 2 回 本学の経営をとりまく課題・方向性について」 濱田 忠章 副理事長	322 名 (教員 197 名、 職員 125 名)
第 16 回	2 月 12 日 (水)	「PROG 全学説明会」 (株) リアセック 酒井 陽年 氏 教育改革支援センター長 西片 聡哉 教授 学内データ解析室長 佐藤 嘉倫 教授	202 名 (教員 150 名、 職員 52 名)

総括

教育改革部会は、(1) 学生による授業評価アンケート、(2) FD・SD 研修会について、実施・運営を引き続き行うことができた。また、FD 研修会として、2024 年 7 月に授業評価賞の表彰式・パネルディスカッションを、2023 年度に引き続き規模を拡大して実施した。さらに、春学期の 6 月および秋学期の 10 月を授業公開・見学推奨月間とし、教職員による授業見学を 2023 年度秋学期に引き続き行った。

他に、2024 年度の特記事項として以下の点が挙げられる

- ① 「本学の経営をとりまく課題・方向性」に関する SD 研修会を濱田副理事長が主宰し、2024 年 9 月および 12 月に実施した。本学の全学的な状況や方向性について、教職員全体で認識の共有を図ることができた。
- ② 2025 年度以降の新カリキュラムの概要および運営について、2024 年 12 月に説明会を実施し、300 名を超えるの教職員の参加を得て、内容理解の共有を図り、課題を浮き彫りにすることができた。
- ③ 2025 年 9 月に経済経営学部およびバイオ環境学部で国際コースが開設されることを踏まえて、英語による授業実践に関する FD 研修会および英語によるコミュニケーション・スキルアップに関する SD 研修会を両キャンパスで各々定期的に開催した。多くの教職員が参加し、有意義であった。
- ④ ICT を活用した教育手法の需要が高まっていることを受けて、2024 年 7 月に FD 研修会を開催し、好評であった。今後も継続的に開催することを検討したい。

- ⑤ 内部質保証および学修成果の可視化・実質化の重要性が全国的に高まっていることを受けて、内部質保証に関する SD 研修会を 2024 年 9 月に開催し、カリキュラム・アセスメントに関する FD 研修会を 2 回（同年 10 月・2025 年 3 月）開催した。関連して、汎用的能力を客観的に測定する外部アセスメントテストである PROG を 2025 年度から全学的に導入することが決まり、PROG に関する説明会を SD 研修会として複数回実施した。

2025 年度の FD・SD 活動に向けた課題

全般として、各学部委員が教育改革部会の構成員ではないため、学部学科 FD の企画等について各教員とのコミュニケーションが取りにくいことがあり、情報共有について引き続き改善を図りたい。

FD 活動・SD 活動の具体的課題は下記の通りである。

1. 2025 年度から始動する新カリキュラムの効果的な実施に向けて、教育手法の改善や学修成果の実質化を図る必要がある。教育方法については、アクティヴ・ラーニング、ITC 活用、および英語による授業等に関する FD 研修の実施を検討したい。学修成果の実質化については、外部アセスメントテストの PROG も活用しながら、カリキュラムや DP 到達度のアセスメントを恒常的にを行い、教育改善につなげる必要がある。
2. 入学生アンケート、学生意識調査、および卒業時アンケートは、2025 年度から PROG のアンケート機能に統合することで効率化を図り、学生負担を軽減する。学生アンケートを適切に分析しながら、学生満足度および本学推奨度を向上させるために必要な施策の提言を行いたい。また、授業評価アンケートについては、アンケート結果の活用や授業改善を学生に効果的に可視化することが引き続き課題となっている。授業評価アンケートの改善や有効活用については 2025 年度も引き続き各学部学科の FD 研修として検討を行うことが望まれる。
3. 本学は今後留学生の増加によりキャンパスの国際性がますます高まる。多様性を理解し尊重する学内の雰囲気醸成が重要である。英語によるコミュニケーション力の向上、異文化理解、または障がい学生支援等、効果的な SD・FD 研修を実施し、教職員のみならず、学生に対しても意識が向上できるような方策が必要である。

以上